

第3回松山市総合計画審議会議事録

日時	令和6年6月3日（月）午前9時30分～午前10時45分
場所	松山市役所別館6階 第3委員会室
出席者	11ページ参照

1. 開会

2. 議事

(1) 第2回審議会の振り返り

檀会長

- ・ 議事の「第2回審議会の振り返り」について、事務局からご説明をお願いします。

事務局

（事務局説明）

檀会長

- ・ この件について、何かご質問やご意見がありましたらお願いします。

一同

（質疑・意見なし）

(2) まちづくりの方向性「仕事がつながる」

檀会長

- ・ 続きまして、「まちづくりの方向性」についてです。「まちづくりの方向性」は、「人」、「まち」、「仕事」の3分野あり、今回は、「人」と「まち」の2分野をご審議いただきましたので、本日は残りの分野である「仕事」について審議していきたいと思っております。
- ・ 前回までに、事務局から本文の説明と、その背景にある市民の皆様からのご意見の紹介がありましたので、本日は事務局からの説明を割愛させていただきます。
- ・ なお、まちづくりの方向性は、「人」「まち」「仕事」が相互に関わり合うことでもありますので、戻ってご意見いただくことは全く問題ありません。
- ・ それでは、よろしくお願いします。

高田委員

- ・ ①～③では市内企業に焦点が当たっていると思いますが、誰が取り組むのか明確ではないことが気になっています。
- ・ ここは①「人がつながる」の若手の流出にもつながる部分だと思いますので、市内企業に意識改革を促せるような文言があればよいと考えます。
- ・ 例えば①であれば、冒頭に「市内企業は」と入れるほか、最後の「労働環境が整っています」の部分を「市内企業が労働環境を整えています」として、自治体はサポートしていく姿勢を示すとよいと思います。

- ・ ②の「市内企業の販路開拓」についても、同じく「市内企業は」として、「市内企業が知識を持った人材育成を進めている」といった書きぶりにするのが、企業側が将来都市像を考える上で大切だと思います。
- ・ また、観光分野の⑥にサステナブルツーリズムについての記載がありますが、政策投資銀行が今年の3月に公表した観光連携レポートでもサステナブルツーリズムについて言及しています。
- ・ サステナブルツーリズムは、「受入地が持つ意識」で、松山市が展開することはよいと思いますが、さらに大切なこととして、来ていただく観光客の方にも「責任ある旅行者」、「レスポンシブルトラベラー」としての観点があります。来ていただく方に「レスポンシブルツーリズム」という観点で発信していくことも大切だと思います。
- ・ オーバーツーリズムを引き起こさないという観点にもつながりますので、追加を検討していただければと思います。
- ・ レポートをお渡ししますので、ご一読いただければと思います。

檀会長

- ・ 市内企業が主体的に動く意識付けをするために、書きぶりが大切だということで、若者が都市に流出するという課題に対して、「働ける環境がある」ということを、いかに主体性を伴って発信していくかという観点をいただきました。
- ・ サステナブルツーリズムについては、受け入れる側だけではなく来ていただく方についても、レスポンシブルトラベラーという観点が大切で、オーバーツーリズムが他都市でも問題となっていますが、バランスも含めたまちづくりが出来ればよいのではないかと貴重なご意見をいただきました。

井口委員

- ・ ④～⑥は観光について言及していますが、観光については、全国的にどの地域でも④観光経営、⑤DX やテクノロジー、⑥持続可能な観光の3本柱で進めていく方向性ですので、④～⑥の構成はよいと思います。
- ・ ただ、細かく見ていきますと、④は冒頭から「観光業」とあり、狭い視点で議論されています。
- ・ 戦略的観光地経営は、商業や観光業に携わっていない方も含めて、観光事業者と非観光事業者が連携していく観光地経営が望まれていますので、間口を狭めずに、「多様な事業者」という言葉を入れるとよいと思います。
- ・ ⑤について、おそらく地方は利便性追及よりも、人手不足や労働力不足の解消に重きを置いていると思いますので、サービスとしての利便性を上げるだけではなく、地域の状況に鑑みてDXを導入する視点が重要だと思います。
- ・ ⑥は、持続可能な観光について、地域ならではの資源は、地域ならではのルールで管理・活用していく必要性がありますので、冒頭の「また」の後ろに、「地域ならではの資源をいかし」といった言葉が入ると、2行目の「守る」にもつながると思います。
- ・ 「地域ならではの」という文言は、序論の時代の潮流「グローバル社会への対応」にも記載がありますので、ここにも入れていただきたいと思いました。

檀会長

- ・ 観光業だけではなく、周辺の産業も含めて観光全体を盛り上げていくというご指摘をいただきました。
- ・ また、DXにより観光客に対するサービスが良くなることはもちろん、労働力不足という受入側の視点で、DXを活用することも重要になってくるというご指摘をいただきました。
- ・ ⑥についても、「地域ならではの資源を活用しながら」といった文言を加えることで、リソースをどのようにして観光を含めて活用するか、明確になると感じました。

倉本委員

- ・ ⑨⑩⑪は働き方についての記載だと思いますが、大都市圏の仕事を松山でするだけでなく、10年、20年後を想定すると、海外と仕事をすることも進んでいると思います。
- ・ 自動翻訳機能もかなり進んでいますし、国内だけではなくグローバルに働く人が増えて、当たり前になってくると思いますので、そのような内容を入れたほうがよいと思います。
- ・ また、⑪に「松山版エコシステム」とありますが、この内容が明確でない気がします。
- ・ このような概念があまり浸透していないようであれば、もう少しブレイクダウンして、松山版エコシステムについての注釈などを入れたほうがよいと思いました。

檀会長

- ・ ⑨の大都市圏の仕事という部分については、海外の仕事も可能になってきていますし、言語の壁もアプリを活用すればテクノロジーが解決してくれますので、日本だけに限定せずに海外も想定した書きぶりにはあると思います。
- ・ 「松山版エコシステム」について、事務局から補足説明をいただければと思います。

事務局

- ・ 「松山版エコシステム」について補足でご説明いたします。
- ・ 「エコシステム」は一般的に生態系を表す言葉として使われてますが、最近はビジネス分野で、それぞれが持ち合わせていないものを連携して効率的に進めることで、経済的に発展させる仕組みを指します。
- ・ 松山は大学が集まっている都市ですので、行政と民間だけではなく、大学も含めた連携を指して、松山版と記載しています。
- ・ そこまでオリジナリティがあるわけではなく、他の委員会からも同様のご意見をいただいていますので、分かりやすく書かせていただきたいと思います。

檀会長

- ・ 大学があるというのは、松山ならではの土地柄だと思いますので、松山らしいエコシステムが構築できればよいと思います。

堀副会長

- ・ 松山市内、松山市と大都市圏、松山市と海外、アジア経済圏との仕事のつながりが記載されていますが、「SETOUCHI」という表現を後押しするため、周辺地域との仕事のつながり、連携に

ついでに言及したほうがよいと思います。観光業やその他の産業でも、周辺地域との連携なしには発展していかないと考えます。

檀会長

- ・ 「SETOUCHI」というキーワードを踏まえ、周辺地域も含めたつながりに言及してはどうかというご意見でした。

村岡委員

- ・ ③④⑤について、3点意見があります。
- ・ まず、人口減少の問題から来る深刻な課題は、人口流出や経済の衰退だけでなく、地域住民の誇りの喪失につながるということです。先行研究でも言われていることで、地域住民の誇りをいかに復活させるか、地元愛や誇りをいかに育てていくかをもう一度考えて、どうアプローチしていくかという視点が必要ではないかと思えます。
- ・ 2点目に、若者流出が大きな課題ですが、若者が地方に留まることを阻害する要因は、国交省の過去の研究調査データで、1つ目に寛容性、2つ目に多様性、3つ目に交通の利便性とされています。交通の利便性について、もう少し「まちづくりの方向性」で言及できると良いと思えます。
- ・ 3点目に、まちづくりでデジタル技術の導入を考えるのであれば、「仕事がつながる」という枠組みに、「安心して仕事ができる松山に、人やモノ」だけではなく「情報」が集まってきて、安心して働くことができること、多様性に応じた、多様な働き方が実現できることを示すことも一つの案ではないかと思えます。

檀会長

- ・ 人口流出という深刻な課題がありますが、誇りの喪失という文化的な部分に、どうアプローチしていくかについては重要な観点だと思えました。
- ・ 若者が地方に留まる3つの阻害要因については、寛容性、多様性、交通の利便性ということで、松山は交通の利便性について、他の都市圏との差が大きいと思えました。
- ・ そのほか、デジタル技術によって多様な働き方ができることや、様々なことが可能になることが若者にとっては魅力に感じる部分だと思えます。いかにDXを浸透させて、東京や大阪にある、今どきの若い人たちが当たり前のように思い描く働き方が、松山にも当然あることを示すことは必要な観点だと思えました。

大石委員

- ・ ①の冒頭「若者や高齢者、障がい者、外国人などが働きやすく」という部分は、多様な背景を持った方々に合わせた働きやすい環境が示されていると思えますが、「人がつながる」という点でも、多様な人が一緒に働きやすい職場環境が整っていることが、イメージとして重要だと思えます。
- ・ 働く中で、人間関係が重要で、どんなに好きな仕事であっても、環境に左右されるところが大きいと感じています。
- ・ 背景に合わせた働きやすい環境があることが大切で、「私たちみんなと一緒に働きやすい」、

「ともに協力して働ける」といった、人とつながっている部分についても表現されると、心理的に安心して働きやすいことが伝わると思いました。

檀会長

- ・ ①の労働環境について、職場は仕事をするだけでなく、人とのつながりや人間関係の豊かさにつながっていくと思いました。

佐川委員

- ・ ①～③について、「女性活躍」という観点は人口流出を阻止するためにも大切だと思いますので、①の「若者や高齢者、障がい者、外国人など」のところに「女性」も追加することや、「結婚後も仕事がしやすい」、「家族を持っても働きやすい」という文言が入っていることが大事だと思います。

檀会長

- ・ 女性が輝ける、活躍できる働き方というのはこれから力を入れていくべき重要な観点だと感じました。

本田委員

- ・ 若者が起業しようとするときに、魅力を感じる仕事があることが重要だと思います。魅力ある仕事ができる環境であれば、様々な起業家が出てくると思います。
- ・ そして、若者を受け入れやすい組織づくり、地域づくりを目指すといった文章を入れることで、若者が受け入れてもらえることを感じられると思います。

檀会長

- ・ 起業したい若者が増えている実感はありますが、チャレンジしようという時に、いかにまわりがサポートできるか、若者を受け入れる雰囲気や環境づくりが大切だと思いました。

岩田委員

- ・ コンパクトシティという話もあったと思いますが、私も松山に来て一番よいと感じたのは、職住近接で、それに伴うQOLの向上が魅力的だと思います。
- ・ また⑩のところで「企業誘致」については、見当たらなかったため、ありきたりですが入れていただければと思いました。

檀会長

- ・ ⑩について「企業誘致」というキーワードは、確かにはっきりと見えていないと思います。
- ・ 職住近接については、東京などと比較しても松山はコンパクトで職場までの移動時間が短いという点で、大きくメリットがあるまちだと思います。

坂谷委員

- ・ ⑦⑧についてですが、⑦については、「松山市の食糧自給率をアップさせる」というような表

現を入れたほうが分かりやすいと思います。

- ・ 衰退する農林水産業を松山市が積極的にバックアップするというリーダーシップが見えてくると思います。
- ・ ⑧の「松山ならではの特産品」について、「儲かる仕事としての魅力が高まり」とありますが、温州ミカンやオレンジが世界的な不作で、オレンジジュースがスーパーから消えていっています。
- ・ また数年前には、スーパーから国産のミカンの缶詰めが消えることがありましたが、地元の農家さんは意外とそのことに気付いていません。
- ・ 温州ミカンはすぐに食べられる魅力がありますし、自然災害も多くなっていますので、加工技術をアップさせることなどにより、今後も魅力ある商品ができると思います。
- ・ また、スーパーの地産地消コーナーがすごくにぎわっていて、専業農家だけではなく、兼業で農業をしている人もたくさんいるので、流通経路を手助けするなど、もう少し幅広く、多様な面からの農業、水産業について記載があればよいと思います。
- ・ 「儲かる仕事」というよりも、デジタル化が進み、個人が売って、消費者の声が直接本人に返ってくる時代になってきて、そういった魅力が今の農業にはあると思っています。
- ・ QOL の向上という意味でも農業を進めていくことについて、何かアピールしていただければと思います。

檀会長

- ・ 農業の生産者には、従来だと流通の関係で消費者の声が直接届かなかったのですが、今はネット販売などでダイレクトに消費者の声が届きますので、確かに以前とは違う魅力があると思いました。
- ・ 全国的にも有名なライムやアボカドなどの農作物が松山にはありますので、うまく情報発信していければよいと思います。
- ・ 食糧自給率をどう上げるか、地産地消については、銀座で高級品として扱われているライムなど、一番美味しいフレッシュな状態で味わえるのが松山だと思いますので、農業含めた一次産業についてどのように書くのかポイントになると思います。

竹下委員

- ・ ⑩に関連して、「リカレント教育」という言葉を入れていただきたいと思います。
- ・ 学び直しの機会については、大学も力を入れているところで、⑩は最前線の方が大学や企業と連携した内容というイメージを受けます。
- ・ これから人手不足となるため、高齢者が労働力となる必要がありますし、女性の雇用についても学び直しやリカレント教育が重要だと思います。

檀会長

- ・ 「リカレント教育」は大学でもキーワードとなっていて、特に情報分野では10年前の知識では古いので、新しい知識をどう学ぶか、社会人になってから、他の分野も含めてそういった教育を受ける機会があると、働き方の変化が加速すると感じました。

高須賀委員

- ・ ⑥⑦⑨についてです。
- ・ ⑥の「地域の自然や文化を守り育み…世界から選ばれる観光地」となるために、地元企業同士の連携は必ず必要だと思います。
- ・ 地元企業が自分たちの子孫に、先代が遺してくれた自然を遺し、経済的な資産として世界に高く売っていくために、利活用できる環境整備ができていることも必要な視点だと感じます。
- ・ ⑦について、島しょ部も含めて農林水産業や漁業、農業が同じ県に存在する稀有な土地柄だと思いますが、どの分野でも後継者問題を抱えていると思います。
- ・ ⑩にも関係しますが、都市部から農業に関するDXを伴った起業をしたいという人材を幅広く受け入れていけるような情報発信を今後積極的にしていく必要があると思います。
- ・ ⑨について、大都市からのUターン人材が、Uターンして起業する環境整備について、大都市では、羽田空港からアクセスしやすいところに、二拠点居住する人のためのシェアオフィスがどんどん増えています。
- ・ 東京には、地方の優秀な人材を吸い上げるシステムが出来上がってしまっているので、その逆があっても良いと思います。
- ・ 地方の行政が民間企業をどんどんバックアップして、東京の特別なスキルを持った人材がどんどん松山で活躍できる拠点づくりを進めていければ、もっと有能な人材が集まってくるのではないかと考えています。

檀会長

- ・ 世界から選ばれる観光地という点では、地元企業の連携が必要ですし、一方で、農林水産業では後継者が大きな課題です。
- ・ 優秀な人材が松山で働くことについて、のんびりとした環境で仕事ができるという点では非常に可能性が高いと感じました。

影浦委員

- ・ 私の専門分野の保育や福祉の仕事はどこに該当するのか気になりました。
- ・ 恐らく①のあたりで、「働きがいがある」、「働きやすい」という点が該当すると思います。
- ・ 給料が安いので、県外で就職する学生が多いので、「労働環境」について、保育の場合であれば配置基準などが整うことにより、愛媛や松山で働きたいという若い人たちが増えていけばよいと思います。
- ・ 労働環境の質が高まるという視点があれば良いと思いました。

檀会長

- ・ 保育分野には賃金や労働環境の課題がありますが、住む人から見ると、保育の充実は子育てしやすい環境につながり、大きなポイントだと思います。

倉本委員

- ・ ④⑤⑥が観光関係、⑦⑧が農林水産関係についてだと思います。
- ・ 「仕事がつながる」全般を見たときに、松山の特色として、観光業と農林水産業がクローズア

ップされることはよく分かります。

- ・ ただ、その陰に隠れて、サービス業や工業などに言及しなくてよいのか気になりました。
- ・ 確かに、特徴があまりないような気もしますが、どこかに存在が見えるような書きぶりがあったとしてもよいと思います。

檀会長

- ・ 一次産業の農林水産業、三次産業の観光業が松山の特色ある産業だと思いましたが、それ以外にも工業やサービス業など含めて、二次産業、三次産業などをどう書いていくのかというご意見をいただきました。デジタル産業をどのように強調していくのかという視点もあります。
- ・ 全て書いてしまうと総花的になってしまい、書きぶりがなかなか難しいと思いますが、先ほども意見があったように、農業の加工品をネットで販売することを考えると、六次産業化という意味では、一次産業だけではなく、二次産業、三次産業へつなげていく、つながるという意味を持たせることもありうると思いました。

(3) 総合計画の進行管理について

檀会長

- ・ それでは次に「総合計画の進行管理」についてです。
- ・ 事務局より説明をお願いします。

事務局

(事務局説明)

檀会長

- ・ この件に関しまして、何かご質問やご意見がございましたらお願いします。

大石委員

- ・ 外部の評価や外部環境の変化も踏まえて進行管理をするということで、目標値は何をすべきか、決める過程において大切だと思いますが、あわせて、市民の方の声を大事にするべきではないかと思いました。
- ・ 予測の立たない様々なことが起こる時代であることを踏まえて、外部環境の変化も踏まえ、変えていかなければならないこともたくさんある中で、市や外部の関係団体の視点だけではなく、市民の人々の声も、サイクルの中に入れていただき、改善策を考えることが重要で、ウェルビーイングにつながっていくと思います。
- ・ 市や関係団体の視点で考えて話をする 것도大切だと思いますが、一般市民が本当に施策を通して幸せになっているのか、自分の生活や家族が充実しているのかが、真に大切な部分だと感じています。
- ・ なぜこの話をしたかということ、海外で、イギリス、フランス、ドイツなどの欧米の方と働いたことがあり、その方たちにとってはウェルビーイングという言葉が身近で、職場でもウェルビーイングという視点でプログラム(事業)の内容や職場でのルール、働き方を決めていました。
- ・ 欧米の方は自分が幸せかどうかについて、自分でも手を加えることが必要だと理解していま

す。

- ・ 市民の皆さんにとっても、ウェルビーイングという観点で、施策を通して自分たちが幸せになっているか、よい効果が与えられて地域が良くなっているか、他力本願ではなく自分たちのこととして考えることにつながると思います。

檀会長

- ・ ウェルビーイングという観点をご指摘いただきました。
- ・ これまでの客観的な指標だけではなく、人がどう感じるか実感の部分をどう指標化するかが大きなポイントだと思います。
- ・ 生活が豊かになっているか、幸せかといった、実感を伴うような指標は重要な観点だと思います。
- ・ 国でも、人口減少社会を迎える中で、各個別計画で、国民がよい状態を感じているかどうか、ウェルビーイングの指標、主観的な指標を導入する動きが加速しています。
- ・ また、6次総合計画延長時の審議会においても、KPIの達成状況と市民の実感がどれだけ整合するかがポイントだということをご答申させていただきました。
- ・ 次期総合計画においては、変化の激しい予測不可能な時代において、しなやかに対応するためにも、市民が幸せを実感しているかどうかは大切な視点だと考えますので、これまでの客観的なKPIに加えて、市民の実感を測れるような主観的な指標を導入すべきという貴重なご意見をいただきました。

岩田委員

- ・ 松山市も含め、各自治体が人口減少に対応して、様々なことをやっていきたいという、同じような想いを抱いていると思いますが、松山でいうと近いのは長崎市や宇都宮市だと思います。他の都市と比較してどうかという相対的な評価も取り入れていただければと思います。

檀会長

- ・ 他の同じような自治体との相対的な評価をしてはどうかというご意見でした。

(4) 今後のスケジュールについて

檀会長

- ・ 次に「今後のスケジュール」についてですが、ここではスケジュールと併せて、審議会で委員の皆様からいただいたご意見が、最終的にどのように答申という形で反映されるのか、イメージの共有をさせていただきたいと思います。
- ・ 事務局より説明をお願いします。

事務局

(事務局説明)

檀会長

- ・ この件に関しまして、何かご質問やご意見がございましたらお願いします。

一同

(質疑・意見なし)

3. 連絡事項

事務局

(事務局説明)

4. 閉会

以上

第3回松山市総合計画審議会委員名簿 出席者名簿

役職	氏名	所属等
会長	檀 裕也	松山大学 副学長
副会長	堀 利栄	愛媛大学 大学院理工学研究科 教授
委員	井口 梓	愛媛大学 社会共創学部 地域資源マネジメント学科 准教授
委員	岩田 和之	松山大学 経済学部 経済学科 教授
委員	大石 紗己	独立行政法人 国際協力機構 愛媛デスク 国際協力推進員
委員	影浦 紀子	松山東雲女子大学 人文科学部 心理子ども学科 准教授
委員	倉本 逸男	公募
委員	坂谷 安遥	公募
委員	佐川 東輝枝	公益財団法人 えひめ女性財団 理事
委員	高須賀 大	公募
委員	高田 名奈	株式会社日本政策投資銀行 松山事務所 副調査役
委員	竹下 浩子	愛媛大学 教育学部 准教授
委員	橋本 俊晴	公募
委員	本田 元広	公益財団法人 松山市文化・スポーツ振興財団 理事長
委員	村岡 則子	聖カタリナ大学 人間健康福祉学部 社会福祉学科 教授

(敬称略・五十音順)